図書館だより

10 号

2017 年 1 月 30 日発行

先生方より皆さんへ　p2-6

図書館からのおしらせ　p6-7

図書館利用 Q&A　p7-8

表紙作者紹介、図書館スタッフ紹介　p8

先生方より
皆さんへ

岡安 勲　学長より

年齢を重ねると体力や集中力は落ちて寂しい気分になりますが、反対にリセプターが増えるためか、別の楽しみができます。例えば、学生時代に読んだ本の感触が今読み返すとまた違った印象で、予期せぬ新鮮な感動を覚えることです。これと同じことは四季の花や景色をみても感じます。学生時代に花をめでるなどという気持ちは、恥ずかしながらあまりありませんでした。ところが今では 1 年の中での樹や草花の移り変わりを楽しんでいます。桐生大学のキャンパスは比較的樹々が多く、特に 9 号館の周囲や 4 号館と図書館の間はよく整備されていて、散歩したり、眺めたりと、楽しみのひとつが増えました。これらは大事にしたい空間です。

ところで読書はいいですね。困ったとき、悩んでいるときに、ハウツーものでない本を読むと、不思議と元気がでてきます。これは読書によって別の視点が与えられて、悩みの解決に新たな考えが湧いてくるのではないかと思っています。あるいは悩んでいたことがちっぽけなことに見えて、そんなことで悩んでいることがバカらしくなってきます。自分では直接体験できないことを読書によっていろいろ経験ができるというようなことを、どなたかが書かれていました。また読書は思索の時を与えてくれるともいいます。まさに静寂の中に思いを巡らすということでしょう。維持したい大学の雰囲気はこのイメージそのものです。

先日、お昼休みに本学図書館を訪ねました。図書館は南向きになっていて、正面から入ると、ちょうど担当の吉田先生がせっせと本を整理されていました。1 階に書架がずらりと並んでいて、その脇に読書机があり、静かで落ち着いた雰囲気です。またらせん階段を上っていくと、円形のコンピューター室やグループ学習ができる丸テーブルが配置されていて、とても機能的な感じです。学生の方々が真剣に勉強をしている姿を見ました。大学図書館では、以前のアカデミズムの象徴としての情報の提供に加えて、学生が主体的に学ぶ場として、いわゆる情報リテラシーの習得やその向上を支援することが重要なミッションのひとつになってきています。本学図書館もこの流れに対応していきたいと思います。

本学は実学を学ぶコースが主体ですので、実学書以外の本を読む時間がなかなか取りにくいと思います。しかしながら学生時代にいろいろなジャンルの本をたくさん読んで、感性を磨く、或いは見識を高めることもいいのではないでしょうか。以下の本はそれぞれ全く関連性がありませんが、個人的にはいいなと思っています。

新渡戸 稲造　著　**『武士道』**
ロマン ローラン　著　**『ベートーベンの生涯』**
宮沢 賢治　著　**『銀河鉄道の夜』**
梶田 昭　著　**『医学の歴史』**（私の恩師の絶筆。通して読むというより、あの時代の医学・医療はどうだったのだろうかと眺めてみるだけでいいです）

小松原 洋生　アート・デザイン学科長より

「芸術領域の学びと職」

芸術を学んで職に就けるのか。今から 30 年前受験生であった私は、幾度もこの言葉を浴びた記憶があります。このような疑問を持つのは、私の周囲だけではないでしょう。今の芸術領域を希望する若者の周囲も、また本人たちも、同じような疑問を抱いているように見えます。芸術を学ぶ者は絵描きになる、という固定概念が社会に浸透してしまっていることが理由でしょうか。

もちろん、絵を描くことが生業となる場合もあります。過去においては、映画の看板や銭湯の富士山は専門の画家によって直接描かれていました。また、今においても絵を描くことを生業としているイラストレーターや芸術家もいます。しかし、芸術を学んだ多くの者は、サービス業や製造業、建設業また、昨今ではマルチメディア分野や医療などのさまざまな産業に関わりながら、芸術領域の職能を駆使しています。すなわち、彼らは「デザイン」と括られる分野の能力を備えているわけで、彼らにとって絵を描くことは、アイデアやかたちなどを表示すること、と捉えるとわかりやすいでしょう。

アート・デザイン学科では、絵を描く能力（デッサン力）を基礎と位置付け、イラストレーション・絵画、マンガ・コミックイラスト、グラフィックデザイン、ファッション・造形、インテリア・空間デザインという、５つの専門分野の教育をおこない、さまざまな産業で活躍できる人材を育成しています。そのような我々の専門教育の中で、特にユニークな授業は、医療機関や公共機関、民間企業からの協力を得ておこなう「フィールドワーク」です。この授業は、実践を通して芸術が社会でどのように役に立つのかを学ぶだけでなく、芸術領域を学んだ学生が、様々な場所で活躍できるという事を地域に知ってもらう、というねらいもあります。

このことは、デザインされた「もの」としての「図書」の観点から、お話しするとわかりやすいかもしれません。「図書」は一般的に、知識や情報を得るツールであったり、考え方をひろげるアドバイザーであったりします。しかしアート・デザイン学科で学ぶ学生にとっての「図書」は、上記に加え、装丁をデザインしたり、挿絵を描いたりする対象となります。またマンガを学ぶ学生にとっては、みずから物語やシーンを創出した作品ともなります。他分野の方々にはちょっと想像しづらいことかもしれません。みなさんが本屋さんで何気なく手に取る「図書」も、誰かが装丁をデザインし、誰かが挿絵を描いています。そのためか、私たちはよく「美しい本」という言葉をつかいます。その対象は雑誌であったり、画集や写真集であったりします。その理由は、視覚的な情報が多いものには、装丁のデザインが写真や絵画などのコンテンツの見え方に顕著な影響を与えるからです。コンテンツの背景色だけでも、議論の対象となったりするのは、想像できると思います。

そのように考えると、みなさんの身の回りのパソコンやメガネ、今、みなさんが過ごしている部屋、テレビのスタジオなど、人がつくったものや空間は、誰かがデザインしていることがわかります。

アート・デザイン学科では、絵を描く能力（デッサン力）を基礎に広告やホームページ、衣服やインテリア

などのデザインとイラストやマンガなどの表現を創出できる職能を養っています。芸術を学んで職につけるのか。昨年度のアート・デザイン学科の就職率は 94%なので、学びを得た学生や周囲には、そのことが理解されていると捉えていますが、依然、社会での理解は浅いと考えています。就職の実績だけではなく、今後、授業や研究活動、学園祭やオープンキャンパスなどでも、芸術領域の学びと職について、語り続けていかなければなりません。

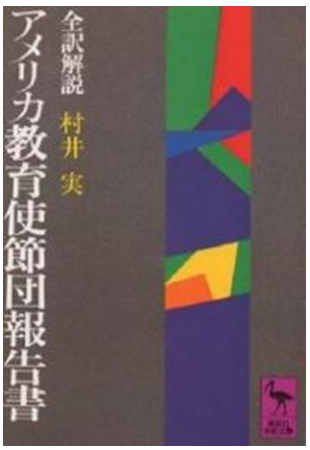
【フィールドワーク～授業の様子～】

【株式会社コスモにて】
織物や布を利用した新商品の提案

【大川美術館にて】
美術館で必要とされる情報やデザインの提案

【東邦病院にて】
病棟内に潤いや楽しさを感じられる癒しの空間を提案

栄養学科　山本 裕詞先生より



「学ぶ者が教育の過程において活発な参加者となるのでなければ、すなわち、学ぶ者が理解して学び取るのでなければ、教育は、試験が終わるや否や忘れ去られてしまう諸項目をただ集積するだけのものになってしまうのである。」

この文言は、いつ頃、誰によって書かれたものだと思いますか。最近流行りのアクティブ・ラーニング？　実は、第二次世界大戦に日本が敗戦した翌年の 1946 年、すなわち、今から 70 年前に書かれた文章です。書いたのは、二十七名からなるアメリカ教育使節団。この報告書の絶大な影響の下、戦後日本の民主主義教育がスタートしました。

次の文言も気になります。「教師の最善の能力は、自由の雰囲気の中でのみ栄えるものである。」70 年前に示された理想を、我々はどの程度実現してきたのか。それとも後退してしまったのか。70 年前の文章が、現代日本の試金石として蘇ってきます。

『**アメリカ教育使節団報告書**』　訳・解説：村井実　講談社学術文庫

生活科学科　熊倉 可菜先生より

九歳で両親を亡くしたハニバルとその祖父であるポップの 2 人の春からクリスマスまでを描いた物語である。
命の尊さや命に対する責任、正直であること、大きな愛の存在、生きることの難しさ、それがいかに素晴らしいことかを共に生活する中でポップは優しく教えてくれた。
その言葉ひとつひとつが素直に心にしみわたり、すっと引き込まれていく。
ハニバルは未熟であるがゆえ過ちをおかしたり、両親の面影を思い出したり、幾度となく悲しみや苦しみの中からポップの存在、言葉を受け止め、自分で考え学び取り、抜け出すことができた。
ポップの言葉になぜこれほどの説得力があるのか、その秘密が明かされるとき、衝撃と共に腑に落ちる。人間の強さと弱さを知っているからこそ紡ぐことができたのだとわかる。
ハニバルの姿が自分にも重なり、ポップの教えが胸に響く。
この一冊をおすすめします。

『**ナゲキバト**』　著者：ラリー・バークダル　訳者：片岡しのぶ　　あすなろ書房

看護学科　林 かおり先生より

現在、全国的に獣害に関連するニュースが多いように思われます。特に目立つのは熊による農作物への被害、出会いがしらの事故、出没件数の報告の多さ等々です。これらの原因は人と動物との住み分けがあいまいなこと、里山の消失、食料としての狩猟の減少による個体数の増加、環境の変化による餌の量によるものではないかと言われています。私は里に下りてきて駆除されていく熊のニュースを聞く度に「邂逅の森」を思い出します。

さて、ご紹介する本の主人公は伝統のマタギを生業とし秋田の山々で獣（特に熊）を求めて旅をしています。旅の描写は聞きなれない山の掟、日本の風土を教えてくれます。例えば、“熊を殺すと必ず雨が降る”などこんなにも不思議な仕事と生活があるのだと知ることができます。街に住む者としては新鮮な驚きを覚えます。また、獣に対する礼節から食物への感謝について考えさせられます。生きるために狩猟をする、これは食事前の“頂きます”につながることが理解できます。

最終章では主人公が“山の神”とされる大熊と対峙し自らの肢を食べられながらも格闘をしながら、“狩るもの”、“狩られるもの”とは何かを“山の神”と問答をしていきます。生きるためには何かの命を頂くとは、主人公の運命は…。一気読みとマタギになった気持ちにさせてくれる一冊です。

『**邂逅の森**』　著者：熊谷達也　文春文庫

おしらせ

オリエンテーションを行いました！

去る平成 28 年 4 月、図書館では新入生を対象に図書館利用の基本的なルール・OPAC の利用方法などを紹介するオリエンテーションを行いました。

１年生のみなさん、内容は覚えていますか？

国試や学期末の試験に向けて図書館を利用する機会も増えると思いますし、学年問わず、ぜひもう一度図書館の利用方法を再確認してみてくださいね。

図書館利用についての基本的な内容は、学生生活ハンドブックの p70～72（2016 年版）や桐生大学図書館ホームページの『利用案内』にも載っています。

視聴覚コーナーを設置しました！

「何これ？」と思っていた方もいらっしゃるかもしれませんが、2 階左手奥に VHS・DVD が視聴可能なスペースを設置しました。本学図書館では実習等に役立ちそうな映像資料だけでなく、映画やドキュメンタリー等の映像作品も所蔵しています。スペースに所蔵映像資料の一覧ファイルが置いてありますので、そこから興味のあるタイトルを選んで視聴してみるも良し、OPAC で役立ちそうなものを検索して観てみるも良しです。

ヘッドフォンは一度に 3 人まで使用できますので、グループ学習にも活用してみてください！

Q&A

今さら聞けない！？ ホップステップ図書館利用！！

「年度初めにガイダンスを受けたような記憶はあるけど、正直あんまり覚えてない……」
「図書館って、たまに行くけどイマイチ使い方わかんなくない？」
……というような方も、もしかしたらいらっしゃるのではないでしょうか。利用にあたり、ここはおさえておくといいかも？といったポイントを幾つかピックアップしてみました！

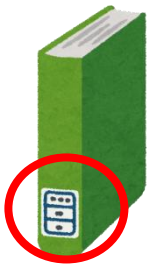
Q. どうやって本を探したらいいの？

A. まずは館内のカウンター横にある端末を使って『OPAC』で検索してみましょう！

資料は**『請求記号』に対応する棚に、背ラベルのアルファベット順で並べられています。**

※背ラベル……図書の背表紙に貼ってあるこのシールのことです。

1 段目が請求記号の数字・2 段目が請求記号のアルファベット部分に対応しています。



図書館の資料は、決まった場所にきちんと保管されていますので、適当な場所に戻されると、検索結果と実際の場所が一致しなくなったりして、非常に困ってしまいます……。

元あった場所を忘れてしまったりした場合は、返却棚に置いておきましょう！

Q. ヤバい！返してない本があった！

A. 貸し出した資料は期限内に返却していただくのが原則なので、期限を 1 日でも過ぎてしまうと、**延滞日数×冊数ぶんの貸出停止ペナルティ**がついてしまいます。どんな場合であっても貸出停止処置は行われてしまうので、延滞に気が付いたら即返却するしか方法はありません……。

図書の貸出は基本的に 2 週間、長期実習期間中は 4 週間となっています。**雑誌類の貸出は長期貸出期間中であっても 1 週間**ですので、ご注意ください！

Q. 桐大の図書館には無かったもので利用したい資料があるんだけど……

A. 相互利用サービスをぜひ活用してみてください！以下の 3 種類の利用方法があります。

①他館を直接訪問する　②文献複写を依頼する　③現物を借用する

今回は、最も利用の多い**②の文献複写**について少しだけご紹介します。**他の図書館に依頼して、資料のコピーを送ってもらうという形での利用方法**です。卒論などに向けて、利用する機会があるかもしれません。

☆メリット：自分で他館を訪問する必要が無い
必要な資料の範囲がわかっているのでダイレクトにそれのみを入手できる
★注意点：基本的に複写代（モノクロで 1 枚 30～50 円）＋送料・手数料ぶんの料金が必要
※ページ数にもよるが大体 1 件 500 円以内
依頼から到着までに日数（2 日～10 日）が必要

……といった具合です。相互利用の申し出は、カウンターにて受け付けております。

また、データベース等から利用可能な文献の複写申込を依頼されることも時折あります。

「日本看護学会論文集」などは当館にも所蔵がありますし、医中誌や最新看護索引 Web、OPAC や CiNii で自分が必要とする資料の有無をまずは確認してみましょう！

桐大図書館ホームページには相互利用等の詳しい説明や上記データベース・電子ジャーナルへのリンク、県内の図書館が所蔵している図書を探せる横断検索システムへのリンク等もありますので、一度のぞいてみてくださいね。本ページ下部の QR コードからもアクセスできます。

相互利用の申込や図書のリクエスト、その他図書館を利用していて何かわからないこと・気になることなどありましたら、いつでもカウンターまでお問い合わせください。ご利用お待ちしております！

表紙について

作　者　紹　介

短期大学部
アート・デザイン学科
イラストレーション・絵画コース
1 年
川久保美里さん

桐生大学図書館　スタッフ

館長／H. T. マチャコン

図書委員／看護学科：矢野美紀、相羽佳子

栄養学科：山本裕詞

別科：木村優子

生活科学科：清水佳代子

アート・デザイン学科：山本博一

図書館員／吉田圭吾、岩田真奈美

桐生大学・桐生短期大学部図書館だより　第 10 号
2017 年 1 月 30 日発行
発行：桐生大学・桐生大学短期大学部図書館
〒379-2392
群馬県みどり市笠懸町阿左美 606 番地 7
TEL：0277-48-9109（直通）
FAX：0277-48-9118